

(別 紙)

「京都府犯罪のない安心・安全なまちづくり計画」及び  
「京都府犯罪のない安心・安全なまちづくりアクションプラン」に係る  
パブリックコメントの要旨及びこれに対する府の考え方

項目	意見の要旨	府の考え方
全体	<p>○スピード違反や駐車違反、携帯電話をかけながらの運転など道路交通法違反も立派な犯罪だと思う。交通ルール、マナー遵守に向けて取り組んで欲しい。</p>	<p>□交通ルール、マナーについては、京都府交通安全計画や自転車安全利用促進計画等に基づき、警察や市町村など関係機関と連携して啓発や交通取締等の取組を行っているところですが、安心・安全な府民生活の実現に向けて、一層の啓発強化等に取り組んでいきたいと考えています。</p>
	<p>○自転車の利用者が急増し事故も多発している中、警察、学校、地域の各団体と市民、自転車販売店の業者も含め一丸となって取組み、小学校から安全運転のルールと走行技術を、啓蒙、教育、指導する時代に来ていると確信している。</p>	<p>□自転車の安全な利用については、自転車の安全利用の促進に関する条例に基づき、交通ルールの遵守やマナーの向上等の広報・啓発をはじめ、学校等での自転車安全教室に取り組んでいるところですが、ご提案いただいた趣旨につきましては、現在改定を進めている自転車安全利用促進計画に生かしていきたいと考えています。</p>
	<p>○「活動のマンネリ化や意識の低下などの課題を抱える地域もあり」とあるが、活動の成果が見えにくいこと、また活動の目標が明確になっていないことが原因ではないか。諸活動の目的が何か明確にし、明確化された目標達成度を測定することが必要である。</p>	<p>□防犯活動の目標設定の明確化や達成度の測定については、府民協働防犯ステーションを中心に各地域の犯罪等の現状を把握したうえで、セーフコミュニティの考え方に基づき、対策立案や目標設定、検証を行う地域防犯の仕組みをつくって行きたいと考えています。</p>
現状と課題	<p>○現状と課題が、現状の記述にとどまっているため、その原因を突き詰めた上で、現状に対してどのような課題があるのか明示するとよいのではないか。</p>	<p>□犯罪等の要因を明らかにし、それに基づいて対策を検討していくことは大変重要と考えておりますが、明確な要因を特定することは非常に難しく、今回のプランにおいては、まずは少年非行の多発要因について調査・研究を行い、その上で対策立案に結びつけていきたいと考えています。</p>

<p>安心・安全な コミュニティ づくり</p>	<p>○府民協働防犯ステーションは、郷土愛が強い京都だからこそ成功する取組だと思ふ。数年間暮らすだけの学生にとっても京都が誇りであるということが、活動の最大の強みではないか。同じような活動を他の地域で行っても掛け声だけで終わる恐れがある。</p>	<p>□これからも、地域住民のみなさんをはじめ、事業所や学生など地域に愛着を持っていただいている幅広い方々の参画を得ながら、京都の強みを生かした活動の活性化を図っていきたいと考えています。</p>
	<p>○「ヒヤリ・ハット情報」の活用を実行するにおいて、府民の犯罪に対する認識が不正確だと、犯罪の防止に結びつかないので、どういう活動が犯罪の防止に結びつくのか、正確な知識や情報を住民に知らせ、正確な知識に基づいて住民が考えることが重要。</p>	<p>□わがまち安全推進員講座やボランティアリーダー研修会など、様々な機会を活用して防犯活動のリーダーに対して情報提供を行うとともに、各府民協働防犯ステーションにおいても、住民向けの独自の防犯講習会を開催していただくなど、府民のみなさんが正確な防犯情報を得られるよう努めていきたいと考えています。</p>
	<p>○大きな学校が移転される地域に住んでいるが、学生が安心して通学できるように、これまで以上に地域、警察、行政、学校が連携して犯罪に強いまちづくりに取り組む必要を感じている。行政は関係機関との連携をより強化して、きめ細やかな地域ボランティアへの支援を図って欲しい。</p>	<p>□ 地域住民と行政をはじめ関係機関との連携強化は大変重要と考えており、住民・行政等の協働拠点である「府民協働防犯ステーション」を中心に、様々な防犯活動を進めるリーダーの育成や人材確保、関係団体のネットワーク形成、アドバイスや資材提供などを通じて地域の実情に応じた防犯活動への支援を行って行きたいと考えています。</p>
	<p>○月極駐車場に駐車していた車のガラスが破られ、車上ねらいの被害にあったことがある。車上ねらいをなくすためには、駐車場への防犯カメラ設置が効果的だと思ふが、防犯カメラは高額なためまだまだ普及していない。地域の防犯環境構築のため、防犯カメラを設置する事業者への補助によって車上ねらいが減ることを希望する。</p>	<p>□急増する車上ねらい等については、深夜、人の出入りの少ない駐車場等での発生が多く、住民による見守りやパトロールによる活動だけでは対応が困難であり、頻発する駐車場を中心に防犯設備の整備に対する支援を行うことを検討しています。</p>

<p>○交番が地域防犯の核となる防犯ステーションの設置には同感である。防犯推進委員や交番連絡協議会各委員を務めてはいるが、住民側に主体性がないためあまり機能しているとは思えない。防犯は実践の哲学であり、啓発のみでは効果はあがらないと考える。割れ窓理論実践運動のようなプログラムを住民が主体的に実施すれば、その過程で地域のコミュニケーションを育むことができ、地域に愛着を感じるようになると思う。</p>	<p>□犯罪を防止していくためには、警察活動や行政関係機関の連携はもちろん、地域住民一人ひとりが主体的に活動に参加いただくことが重要です。</p> <p>「府民協働防犯ステーション」においても、学生や企業OB、事業者など多様な主体の参画を推進するとともに、防犯や交通安全に関する「ヒヤリ・ハット情報」を活用した地域の主体的な取り組み等により、活動の活性化を図って行きたいと考えています。</p>
<p>○学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」は活動拠点がないため、学生たちが一堂に会せる場所を作りたい。拠点を構え地域の方と交流を図ることで、互いを刺激しあうことができ、連携を密にするためにも、拠点が必要ではないか。</p>	<p>□学生のみなさんによる防犯ボランティア活動には大変期待しており、積極的に支援を行っていきたいと考えています。その拠点については、活動の状況を見ながら必要性を含め検討していきたいと思います。</p>
<p>○学生のみで啓発を行うだけでなく、地元の防犯ボランティアの方や、地域の方ともっと交流を深めるといいのではないかと。地域の方と一緒に防犯に関するプロジェクトを考えたりと、もっと世代を超えた活動をする中で、学生の視野も広がると思う。</p>	<p>□地域の防犯活動においては、一人ひとりが地域の一員であることを自覚し、地域を守る活動に関わっていくことが必要であり、学生の皆さんにも地域社会の一員としての役割を果たしていただくことが期待されています。</p> <p>学生防犯ボランティアと地域防犯活動の交流・連携については、双方の活動内容の充実、活性化に大変有効ですので、積極的に進めていきたいと考えています。</p>
<p>○学生防犯ボランティアは自費で活動に参加しているため、活動の交通費補助について検討して欲しい。防犯ボランティア活動の活性化・活動参加者増につながるのではないかと。</p>	<p>□防犯ボランティア活動は、自発性に基づいて活動していただいているものですので、一律に交通費を支給することはできませんが、ボランティアの方々にはできるだけ負担がかからない形での活動について検討していきたいと考えています。</p>

<p>○自転車の防犯ネットは装着が面倒なため、使っている人をみかけたことがない。防犯の日にチラシやティッシュを配布してもあまり効果があるとは思えないため、簡単に使える自転車前カゴ防犯ベルトを街頭で配布し、普及させてはどうか。</p>	<p>□ひったくり等の犯罪を予防するため、効果的な防犯対策について引き続き検討を行うとともに、効果的な対策については府民のみなさんにも積極的に情報提供し、広報・啓発を進めていきたいと考えています。</p>
<p>○地域で子ども見守り活動を行っているが、大半が高齢者のため若い年代、特にPTAの参加を願っている。また、大学生の協力があれば、児童も喜ぶのではないか。</p>	<p>□子ども・地域安全見守り隊などの防犯ボランティア活動については、安心・安全なまちづくりを推進する原動力となっておりますが、参加者の高齢化や固定化などが課題となっているところです。今後、事業所や大学等多様な主体に地域防犯活動への参画を依頼するとともに、若い世代や学生の方々の積極的な参加を促し、活動の活性化を図っていききたいと考えています。</p>
<p>○子ども見守り隊隊員の高齢化が進み、自治体よりや口コミで募集を行っているが、人が集まらない。地域住民の危機意識は低く、PTAや保護者の参加がない状態である。</p>	<p>□犯罪のない安心・安全なまちづくりの推進については、府や市町村をはじめ地元警察、地域組織等によるネットワーク組織を設置し各機関が連携して情報共有を行い、地域に応じた防犯の取組を実施しているところです。</p> <p>また、子ども・地域安全見守り隊への支援についても、引き続き行っていきたいと考えています。</p>
<p>○府や市などの関係機関合同での話し合いや、地区割りの分科会の必要を感じる。子ども見守り活動に私物を使用しているため、ジャンパーやカップ等の資機材の支援を充実させて欲しい。</p>	<p>□防犯ボランティアについては、これまでの養成講座やリーダー研修会に加え、企業OBの参画を促進するため退職者向けの講座を開催するなど地域防犯活動の活性化を図っていききたいと考えています。</p>
<p>○子ども見守り隊を結成してしばらく経ったが、活動がややマンネリ化しているように感じられるため、新しい取組を増やして改善している。昨年実施されたリーダー研修を再び行ってほしい。</p>	<p>□防犯ボランティアについては、これまでの養成講座やリーダー研修会に加え、企業OBの参画を促進するため退職者向けの講座を開催するなど地域防犯活動の活性化を図っていききたいと考えています。</p>

<p>少年非行総合対策</p>	<p>○青少年の健全育成や立ち直りに最も効果的なのは、人としての尊厳を認めてくれる、または生きていてもいいという証が実感できる居場所作りである。規範意識教育だけでは反発を招く場合があるのではないか。</p>	<p>□非行等の問題を抱える青少年に対しては、これまでから自然体験やスポーツ活動など体験活動の場（居場所）を活用した、立ち直り支援を行っているところであり、さらに、プランに掲げる就労支援制度の創設など、居場所づくりについても充実を図っていきたいと考えています。</p>
<p>犯罪被害者支援</p>	<p>○誰でも犯罪被害者になり得る今日、総合的支援窓口としての役割を果たす行政機関と連携して、被害者への直接的支援の中心となっていくのが、民間の京都犯罪被害者支援センターである。今後、北部における人材の確保が求められる。</p>	<p>□犯罪被害にあった場合に府民誰もが必要な支援を受けられるよう、身近な相談機関となる市町村を含めた相談窓口の機能を充実させるとともに、府北部地域でのサポート体制に格差が生じないように、京都犯罪被害者支援センターとも連携しながら、取組みを進めていきたいと考えています。</p>